



芝蘭会報

第183号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 退任あいさつ
京大病院IPS細胞・再生医学研究会
校友会・KMS・FUNDだより
- ③ 第66回西日本医学生総合体育大会
支那より 香川
- ④ 支那より 京都・三重・福井
- ⑤ 支那より 奈良
- ⑥ 支那より 奈良
人事異動・会員計報

多数の会員、参加を

来年4月11日に 芝蘭会臨時総会開催



明治 39 (1906) 年に芝蘭会の発会式が行われた旧解剖学講堂
(現在の京都大学基礎医学記念講堂・医学部資料館)

来年(2015年)は、この発会式から110年目に当たります。芝蘭会では、「第29回日本医学総会2015 関西」の開催に併せて、会員1000人規模が集う臨時総会(合同同窓会)を開催いたします。

- 頭および本庶佑副会頭の挨拶(予定)
- ③各サークルからの活動報告
 - ④閉会の挨拶 芝蘭会副会長
 - 6. その他
 - ①卒業年テーブル、サークル別テーブル、支部別テーブルを設け、旧交を温める。
 - ②医学部音楽部の学生による演奏
 - ③現役学生による研究発表
 - ④祇園芸妓による伝統芸「手打ち」等(芸妓多数参加)

参加登録は芝蘭会 HP から
<http://www.shirankai.or.jp/>

芝蘭会は、明治39(1906)年に第3回の卒業生が出かかっているころ、漕艇や陸上競技の対外試合の際に、医科全体との声が上がり、3年生、2年生、1年生で創

立委員会を組織し、委員が手分けをして教授を歴訪し、荒木学長以下の賛同を得て、「会員相互の親睦をはかる」という目的の基に同年6月25日に旧解剖学講堂(現在の基礎医学記念講堂・医学部資料館)で芝蘭会の発会式が行われました。(創立当時の思ひ出)板垣政参、芝蘭会雑誌創刊号38頁、41頁、「芝蘭会創世記」山田肇、芝蘭会報号外(昭和48(1973)年4月27日)

臨時総会(合同同窓会)プログラム

1. 開催日時: 2015年4月11日(土) 18時30分~21時
2. 会場: ホテルグランヴィア京都 3階「源氏の間」
(JR 京都駅中央口)
☎ 075-344-8888 (大代表)
3. 会費: 1万円(同窓会員の同伴者も同様)
4. 司会者: ロザン(宇治原史規(京大法学部卒)、菅広文)
5. 総会の進行次第
 - ①開会の挨拶 芝蘭会会長
 - ②日本医学総会井村裕夫会

「オール関西」で開催

第29回日本医学総会2015 関西 開催に向けて

三嶋理晃準備委員長 喫緊の問題を議論

「第29回日本医学総会2015 関西」の来

頭・井村裕夫先生のもと、組織委員会の皆さまの協力と準備が進展

でいます。この総会の特徴を二つあげたいと思います。

第1は、この総会が関西全体で企画されていることです。関西一円の12



第29回 日本医学総会 2015 関西 2015年春 開催



芝蘭会会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

事前参加登録受付中! <http://isoukai2015.jp/>
事前登録デスク
TEL: 03-6736-4369 FAX: 03-5963-3277
E-mail: regi-desk@isoukai2015.jp
平日: 10:00 ~ 17:00

【 概 要 】

メインテーマ

医学と医療の革新を目指して
— 健康社会を共に生きるきずなの構築 —

会場

井村 裕夫(京都大学名誉教授、元京都大学総長)

会期・会場

- 1) 学術講演
4月11日(土)~4月13日(月)
国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、
京都大学百周年時計台記念館
- 2) 学術展示
4月10日(金)~4月13日(月)
国立京都国際会館、京都市勧業館「みやこめっせ」
- 3) 一般公開展示
3月28日(土)~4月5日(日)
神戸国際展示場ほか
- 4) 医学史展
2月11日(水・祝)~4月12日(日)
京都大学総合博物館
- 5) 医総会 WEEK
4月4日(土)~4月12日(日)
京都劇場、メルパルク京都、その他京都駅周辺

【 学術講演「20の柱」】

メインテーマに沿って、今日の社会が直面する20の課題について分野横断的な議論が行われます。詳細については、ホームページ (<http://isoukai2015.jp/>) の学術講演の欄をご覧ください。

医 学

- 1) トランスレーション科学の振興
- 2) 臨床研究の推進
- 3) 先制医療(個の視点からの予防医学)
- 4) 再生医療
- 5) リハビリテーションのこれから
- 6) 環境変化と健康
- 7) サイエンスからみた心の問題・心の発達
- 8) 基礎医学からの提案

医 療

- 9) 日本の医療・介護制度を考える
- 10) 医療技術の評価(ヘルステクノロジーアセスメント)と医療資源の配分
- 11) 医療とIT(情報技術)
- 12) 周産期・小児医療の課題
- 13) 在宅医療を含んだ慢性期医療
- 14) グローバルヘルス

きずな

- 15) 効率的な医療人養成制度
- 16) 死生学(終末医療、臓器移植、緩和医療)
- 17) 学生企画
- 18) 震災に学ぶ
- 19) チーム医療の新しい展開
- 20) 移行医療(transitional medicine)

これらのセッションの他、特別企画、産業医向けセッションを計画しています。

務機関を形成し、看護協会、薬剤師会からも代表者として参画いただいています。

心に行われますが、ブレインイベントは関西各地で行う予定です。

このように、関西が団結して開催するということを明言するために、この総会は「第29回日本医学総会2015 関西」と名付けられました。

第2は、本学会のメインテーマ「医学と医療の革新を目指して—健康社会を共に生きるきずなの構築—」の意味するところ

果を生かして疾患を発症前に診断し、介入治療する「先制医療」をどのよう

務機関を形成し、看護協会、薬剤師会からも代表者として参画いただいています。

心に行われますが、ブレインイベントは関西各地で行う予定です。

このように、関西が団結して開催するということを明言するために、この総会は「第29回日本医学総会2015 関西」と名付けられました。

第2は、本学会のメインテーマ「医学と医療の革新を目指して—健康社会を共に生きるきずなの構築—」の意味するところ

果を生かして疾患を発症前に診断し、介入治療する「先制医療」をどのよう

退任あいさつ

本年9月30日をもって、定年よりも2年半早く京大皮膚科教授を辞し、10月1日より滋賀県立成人病センター病院長に就任しました。京大には16年、その前に群馬大教授として6年奉職しましたので、合計22年間教授を勤めたことになりました。芝蘭会の先生方にはこの場をお借りして、長年の皮膚科学教室へのご支援とご指導を心から感謝申し上げます。

充実した皮膚科での日々、感謝

滋賀県立成人病センター病院長 宮地 良樹

二つ目は、臨床です。今まで教室の臨床はアレルギー、炎症性皮膚疾患が主体でしたが、現在の入院患者さんの半数以上が皮膚悪性腫瘍であることからも、スペシャリティを拡大し、オールラウンドな皮膚臨床の展開から関連病院も含めて臨床のポトムアップができ



ま、新しい領域に飛び込んでみたいと考え、早期退職を決定しました。そのあたりは退職記念出版「若い医師たちに紡ぐことば」(メデイカルレビュー社)にまとめましたので一読賜れば幸いです。おかげさまで充実した皮膚科医・教授人生を全うできたことを同門の先生方や教室員、家族に感謝したいと思えます。今後は、滋賀県唯一の県立総合病院の長として全病棟運営に邁進して参る所存ですので、引き続き芝蘭会の先生方のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

再生医療、取り組み学ぶ

京大病院 iPS 細胞・再生医学研究会

学内外から130人が参加



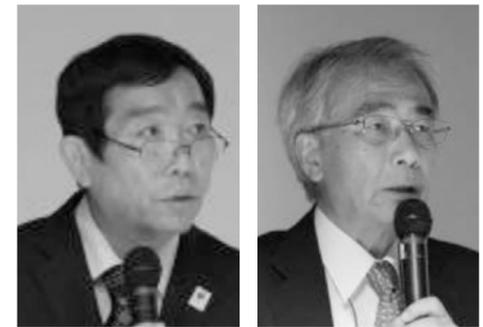
「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療」について特別講演する高橋淳教授

江崎慎英氏(経済産業省)

製造産業局生物化学産業課長)より「再生医療の制度整備と事業展開」法制度の見直しを踏まえた関連産業の育成、山地昇氏(アステラス製薬研究本部再生医療ユニット長)より「アステラス製薬の再生医療への取り組み」、島賢一郎氏(株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング常務取締役事業開発室長)より「再生医療の産

業化への取り組み」と題して一般講演が行われました。引き続き、高橋淳教授(京大病院 iPS 細胞研究所)より「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療」と題して特別講演が行われました。

新任者らあいさつ 京大関係病院長協議会定例総会 懇親会では情報交換



開会のあいさつをする三嶋理晃病院長(写真左)と千葉勉医学研究科副研究科長



140人が参加した京大関係病院長協議会定例総会

7月31日(木)に、京大病院 iPS 細胞・再生医学研究会を芝蘭会館にて開催しました。同研究会は、当院における iPS 細胞、ES 細胞及び体性幹細胞等を用いた再生医学研究の向上並びに成果の普及を図り、ひいては医療の発展に貢献することを目的として平成21

年11月に発足したものです。第10回目となる今回の研究会では、学内外から医療関係者等130人余りの参加がありました。

研究会では、三嶋理晃病院長の開会あいさつの後、一瀬篤氏(厚生労働省 医政局研究開発振興課長)より「再生医療等安全性確保法について」

念館にて開催しました。本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企画することを目的として年1回、定例総会を開催しているものであり、学内外から140人余りの参加がありました。

定例総会では、三嶋理晃病院長および千葉勉医学研究科副研究科長の開会あいさつ、三嶋病院長

芝蘭会館がご利用いただけます

学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、京都観光のご宿泊に、芝蘭会館別館[国際交流会館]をご利用ください。



芝蘭会館別館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 11-1 Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015 E-mail: info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

レストラン[しらん] Tel. 075-752-1027

芝蘭会館別館へのアクセス

- 京都駅から ●D2 乗場 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車徒歩 2 分 ●地下鉄「国際交流会館」行「今出川」下車出口 3 番、市バス 201 系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩 2 分 ●阪急河原町駅から ●出口 6 番 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行、31 系「統熊野・岩倉」行「京大正門前」下車徒歩 2 分 ●京阪出町柳駅から 徒歩 15 分

客室ご利用料金(税込)

Table with 2 columns: Room type and Price. Includes Single (18 rooms), Twin (3 rooms), and Deluxe Twin (1 room).

- 宿泊室(全室洋室・禁煙)は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネットジャック付きです。 ●芝蘭会館(会費納付者)は宿泊利用料金を、1,000円割引させていただきます。 ●チェックインタイムは午後3時、チェックアウトタイムは午前10時となっております。 ●キャンセルについては、3日前より宿泊利用料金の半額を請求させていただきます。

研修室・会議室ご利用料金(税込)

Table with 5 columns: Room type, Number of staff, and Price for different time slots.

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

KMS・FUND委員長 平家 俊男

発達小児科学教授



平家 俊男

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部学生会館内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

KMYIA 4人、晴れの受賞

校友会総会 茂木健一郎氏の講演も



講演を聴く参加者

2013年の京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 Young Investigator Award (KMYIA) の受賞者4人が、9月20日の校友会総会において、表彰状と副賞20万円が授与されました。

今回は全部で11人の応募がありました。KMS FUND委員7人で厳正に審査した上で4候補者にしぼり、最終的に医学研究科長の承認を得て決定されました。従来、この賞を受賞するのは3人でしたが、今年は厳正な審査において同数の方がおられたため、本年の受賞者は計4人とさせていただきます。ノベル賞においては、受賞者間で決まった額の賞金を分配することに決まりました。

平成 25 年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 KMYIA 受賞者

- 【基礎研究部門】**
- 板谷 喜朗 カリフォルニア大学サンディエゴ校 博士研究員
消化管外科学分野博士課程 (医学専攻)
- 論文題目: Loss of SMAD4 from colorectal cancer cells promotes CCL15 expression to recruit CCR1+ myeloid cells and facilitate liver metastasis (大腸がん細胞での Smad4 欠損により CCL15 の発現が誘導され、CCR1+ 骨髄由来細胞が集積し肝転移が促進される)
- 掲載雑誌: Gastroenterology Vol.145(5),1064-1075,2013
- 中木 文雄 機能微細形態学分野助教
機能微細形態学分野 博士課程 (医学専攻)
- 論文題目: Induction of mouse germ-cell fate by transcription factors in vitro (転写制御因子によるマウス生殖細胞系譜の試験管内誘導)
- 掲載雑誌: Nature Vol.501(7466)222-226,2013
- 西田 知史 京都大学こころの未来研究センター 研究員
認知行動脳科学分野博士課程 (医学専攻)
- 論文題目: Separate evaluation of target facilitation and distractor suppression in the activity of macaque lateral intraparietal neurons during visual search (視覚探索中のサル外側頭頂間構領野におけるターゲット促進とディストラクタ抑制の分離評価)
- 掲載雑誌: Journal of Neurophysiology Vol.110(12)2773-2791,2013

- 【臨床研究部門】**
- 金光 禎寛 呼吸器内科学分野 博士課程 (医学専攻)
- 論文題目: Increased periostin associates with greater airflow limitation in patients receiving inhaled corticosteroids (血清ペリオスチン増加は吸入ステロイド加療中の喘息患者の気流制限に関連する)
- 掲載雑誌: Journal of Allergy and Clinical Immunology Vol.132,305-312,2013

喘息、ペリオスチン値を検証

芝蘭会会員の皆さま、霜月の候、いかがお過ごしでしょうか。このたびは、論文題目「Increased periostin associates with greater airflow limitation in patients receiving inhaled corticosteroids」(血清ペリオスチン増加は吸入ステロイド加療中の喘息患者の気流制限に関連する)を平成25年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(臨床研究部門)に選考いただきありがとうございます。

医学研究科呼吸器内科学分野 金光 禎寛

私は平成23年から京都大学大学院呼吸器内科学に在籍し、喘息、慢性咳嗽の臨床、研究に従事しております。私は大学院で血清・気道粘膜組織を用いて喘息患者の長期にわたる呼吸機能低下に関するバイオマーカーについて研究を行ってまいりました。

大部分の喘息患者の呼吸機能低下は吸入ステロイド(以下ICS)の普及により進行を抑制できるようになりましたが、一部には呼吸機能低下が大きい例が残存しています。好酸球性の気道炎症はICSで大部分は抑制されますが、IL-5、IL-13により惹起される好酸球性気道炎症はステロイド抵抗性であり、重症喘息の病態に深くかかわっています。IL-13の下流に存在するペリオスチンは血中での検出が可能であり、血清ペリオスチンがステロイド治療抵抗性の好酸球性気道炎症を反映し、抗IL-5抗体治療の治療反応性の指標となりうることから近年注目されるようになってきました。

われわれはICS治療下でも進行する気流閉塞に、IL-13により惹起される気道炎症が関与し、血清ペリオスチンが気流閉塞の進行を反映するバイオマ

賞者が決定いたしました。基礎研究部門では、機能微細形態学分野の中木文雄さん、認知行動脳科学分野の西田知史さん、消化管外科学分野の板谷喜朗さん(アメリカ在住)、臨床研究部門では呼吸器内科学分野の金光禎寛さんの計4人に、9月20日の校友会総会において、表彰状と副賞20万円が授与されました。

武藤先生からは、京都大学医学部附属病院におけるがん診療の実践についてお話しいただくことも、教育、研究の視点を含めた今後のがん診療の目指すべき方向性について、包括的、かつ具体的に講演いただきました。患者さんと直接向き合う診療とともに、ビッグデータ・バイオバンクの活用によるがん診療の新しい展開など、Up-to-dateな内容を、分かりやすくお話しいただきました。

また、小西先生からも、医学教育に関して、校友会の皆さまにとっても非常に身近な話題としてお話しいただきました。京大医学部に期待される医師像の確立に向けた教育体制の現状、整備とともに、そこに存在する解決すべき課題を紹介していただきました。

校友会総会



今後は、これまでの医学部生への対応にとどまらず、京大病院研修医を対象とした継続した教育基盤向上を担保する

一方で、特別講演講師としては、皆さんもよくご存知の茂木健一郎氏にお願いいただきました。「クオリア」(感覚の持つ質感)をキーワードとして脳と心の関係(心脳問題)について、これまでの活動の紹介を交えながらお話しいただきました。壇上を縦横無尽に使い、躍動感のある講演に引き込まれ、時間がたつのも忘れるように魅了されました。

医学研究科消化管外科学分野 板谷 喜朗

今回、第7回校友会総会・講演会には、200人を超える多くの方々のご参加をいただきました。今回の受賞を励みに今後とも一層努力し、研究・臨床の両側面からがん治療に貢献できればと考えております。そして京都大学医学部からますます多くの研究が世界に向けて発信されることを祈念するとともに、教育研究支援基金にご寄付をお寄せいただきました方々に心より感謝申し上げます。

KMYIAの場合、3人の受賞者でも4人の受賞者でも、副賞の金額に変更はありません。これは校友会の皆様のご理解の賜物と、あらためて感謝申し上げます。

医学研究科長 湊長博教授から表彰状などを受け取る KMYIA 受賞者 (右)



今回の受賞を励みに今後とも一層努力し、研究・臨床の両側面からがん治療に貢献できればと考えております。そして京都大学医学部からますます多くの研究が世界に向けて発信されることを祈念するとともに、教育研究支援基金にご寄付をお寄せいただきました方々に心より感謝申し上げます。

今回の受賞を励みに今後とも一層努力し、研究・臨床の両側面からがん治療に貢献できればと考えております。そして京都大学医学部からますます多くの研究が世界に向けて発信されることを祈念するとともに、教育研究支援基金にご寄付をお寄せいただきました方々に心より感謝申し上げます。

大腸がん抑制因子に着目

今回、平成25年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 KMYIA を頂きまして、大変光栄に存じております。京都大学医学部校友会の方々、研究や論文執筆にあたってご指導いただきました武藤誠先生、坂井義治先生、河田健二先生を初め、共著者の先生方、研究室の方々により御礼申し上げます。

高齡化社会を迎えた日本において、生涯でがん罹患する確率が増えている中、食生活の欧米化が大腸がんの発症にさらに拍車をかけているといわれています。実際、本邦でのがんの部位別死亡率統計において、大腸がんは女性で1位、男性でも3位と上位を占めるがんとなっております。大腸がんによる死亡の原因の多くは、遠隔臓器への転移に起因するものです。そして、大腸がんが

ためにも、この京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)の活用をはかっています。皆さまの一層のご協力をいただければ幸いです。

若手研究者優秀論文賞 KMYIA 受賞者の言葉

基盤の一つとして機能します。一方で、これからの教育の場の整備等が、取り組むべき活動として、組上に上っております。協力・ご支援をお願い申し上げます。芝蘭会・校友会の皆さま、ありがとうございます。

第66回西日本医科学生総合体育大会 試合結果

- 【剣道部】**
男子団体 予選敗退
- 【弓道部】**
26位
- 【ラグビー部】**
一回戦 京都大学—香川大学 17-0
二回戦 京都大学—宮崎大学 26-0
三回戦 京都大学—大阪大学 14-5
準決勝 京都大学—九州大学 12-5
決勝 京都大学—福井大学 3-7
結果：準優勝
- 【サッカー部】**
一回戦 京都大学—香川大学 1-0
二回戦 京都大学—大阪市立大学 0-2
- 【バドミントン部】**
男子団体
一回戦 京都大学—徳島大学 3-1
二回戦 京都大学—熊本大学 3-1
三回戦 京都大学—金沢大学 3-2
四回戦 京都大学—京都府立医科大学 0-3
女子団体
一回戦 京都大学—川崎医科大学 0-2
- 【バスケットボール部】**
男子団体
一回戦 京都大学—大分大学 38-64
- 【硬式テニス部】**
男子団体
一回戦 京都大学—大阪市立大学 5-2
二回戦 京都大学—岡山大学 5-2
三回戦 京都大学—岐阜大学 0-5
女子団体
一回戦 京都大学—大阪市立大学 3-2
二回戦 京都大学—奈良県立医科大学 0-3
- 【卓球部】**
男子団体
一回戦 シード
京都大学—浜松医科大学 0-4
女子団体
一回戦 京都大学—高知大学 1-3
- 【準硬式野球部】**
一回戦 京都大学—佐賀大学 3-5
- 【ボート部】**
1位
- 【ヨット部】**
5位
- 【バレー部】**
男子団体
一回戦 京都大学—山口大学 2-0
二回戦 京都大学—浜松医科大学 2-0
三回戦 京都大学—三重大学 2-0
準決勝 京都大学—岡山大学 1-2
- 【ハンドボール部】**
グループリーグ
京都大学—神戸大学 19-18
京都大学—岐阜大学 23-22
決勝トーナメント
京都大学—香川大学 28-29
- 【ソフトテニス部】**
男子団体
一回戦 京都大学—名古屋大学 1-4
女子団体
一回戦 京都大学—福井大学 0-3

京大、ラグビー 準優勝

北陸で西日本医科学生総体
水泳800リレー、健闘の5位

第66回西日本医科学生総合体育大会は、金沢大学が代表主幹校を務め、全国から集った43校が優勝を目指し覇を争いました。1万人近くの学生達が日頃の成果を十分に発揮し、京大も昨年度に劣らぬ健闘を見せ、1

年に一度の大舞台に、花を咲かせました。今年の水泳部は、三つのリレーのメンバーは全て同じ、阪原、赤壇、高屋、中山の4人で挑みまし

た。全てのリレーで決勝に進出し、中でも800リフリーリレーでは水泳部史上最も速いタイムを記録するといった健闘を見せましたが、他大学の台頭がすさまじく惜しくも表彰台を逃し、5位という結果に終わりました。

男子個人では阪原が50リ自由形で9位、高屋が200リ背泳ぎで4位、100リバタフライで7位、畑野が800リ自由形で5位(タイム決勝)など、決勝に進出した部員も多くいました。女子個人では森が400リ自由形で5位、200リ自由形で9位、土井が50リ自由形で9位と女

子部員も決勝で健闘を見せました。いつも一緒に練習してきた仲間がレースで次々とベストをだしていく姿は本当に素晴らしいもの

で、自分も頑張らなければと強く思いました。個人的にも、出たレースではすべてベストのタイムを残すことができて非常に満足いく西医体となりました。(文責：2回生 朴剛史)

犠牲11人の冥福を祈る

慰霊碑に手を合わすご遺族



広島 京大原爆災害総合研究調査班遭難者慰霊

第69回京都大学原爆災害総合研究調査班遭難者の慰霊が9月13日(土)午前10時から、広島県廿日市市宮浜温泉(旧佐伯郡大野町)の慰霊碑の前で、自由参拝にて執り行われました。

京都大学原爆災害総合研究調査班は、1945(昭和20)年8月6日に原子爆弾が投下された広島にいち早く赴き、被爆者の診療および調査研究を行っていましたが、同年9月17日に西日本を襲った枕崎台風により、滞在先の大野陸軍病院が山津波に見舞われ、調査班の班員約50人のうち教職員・学生の11人の方が多くの患者とともに犠牲となりました。

眼科研究、2教授の講演聞く

支部だより

【香川】

6月28日現在にかけて検査の質がどのように向上してきたかの導人的説明がありました。かつては、検査で得られる画像が眼球の後極部に限定されていたこと、二次元写真であるため立体的構造がつかみにくかったことがおまかな問題点として挙げられていたが、パノラマ写真を用いていたものに広角走査レーザー検眼鏡を導入することによって、「より早く、より広い」眼底検査が可能になってきているとのこと。

そして、高精細な眼底画像を提供する新しい技術として、光干渉断層

検査が可能なようになってきているとのこと。これら二つの装置は共に造影剤を使用せずに検査を行えるので、患者の負担を減らすことができ



和やかな雰囲気の中、香川支部総会

き、また、二つを組み合わせたことにより従来は不可能であった立体解析が可能になることができるとのことです。

二つ目の講演は、吉村教授による「眼科コホート研究」について、長濱0次健診」と題されたものでした。まず、講演の導入として日本人の失明原因について説明がありました。失明の原因となる疾患は、

緑内障、糖尿病性網膜症、高度近視、白内障などさまざまですが、それらは全て環境因子と遺伝因子が複雑に関係する多因子疾患であり、白内障以外は十分な治療法がないというのが実情です。これらの疾患の発症原因を特定したり進行具合を観察したりするためにかつては主に動物モデルを使用していたものの、その成果を人に応用しにくかったため、人間の多様性を考慮した上で「ヒトの病気がヒトの研究で」という考えが主流になってきました。

そこで、個人ではなく集団を対象にし、多数例からなる集団を前向きに長期間経過観察する

コホート研究が近年盛んに行われてきました。コホート研究は、時間やコストをかなりの量を要するといった欠点もありますが、複数の結果因子が同時に調べられ、広範な健康的影響を記録できるといった点で非常に有用です。主要なコホート研究に、米国北部の住民2万8000人の町であるフラミンガム市で1948年に始まったフラミンガム研究があります。

日本では、福岡県糟屋郡久山町(人口約8400人)の住民を対象に行われた久山町研究が、1961年から実施されており、調査の追跡率の高さから日本を代表

するコホート研究となっています。また、京都大学医学研究科が実施しているものとして、なごはま0次予防コホート事業があり、2005年に市民1万人の参加を目標に掲げて開始されました。「0次予防」とは、一人一人の体質に合わせて生活習慣などの改善を行い、病気の予防を推進するという考え方であり、そのために5年に一度「0次健診」という健康診断が住民を対象に行われます。この健診により蓄積した試料は京都大学医学研究科に直接提供され、さまざまな医学研究に活用されています。眼科では強度近視を主なターゲットとして追跡しており、若年層の平均眼軸長は以前より長く

なっており、年々近視化が進んでいるといったデータが得られています。このコホート研究では、研究費はさることながら、研究者の英語力、交渉力、またプロジェクト全体を率いるリーダーシップが今後さらに必要であるとおっしゃっていました。

講演会後の総会では、芝蘭会香川支部前会長の笠木寛治先生から平成25年芝蘭会香川支部の会計収支報告があり、その後現会長の寛善先生から支部長交代のあいさつがありました。続いて香川大学医学部眼科教授の辻川明孝先生が就任のあいさつをなさいました。川支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責：2回生 朴剛史)

最後にになりましたが、この会を通じて大先輩の貴重なお話をたくさん聞かざうことができませんでした。このような貴重な会にお招きくださったことへの感謝の意をもって香川支部総会の報告を終わらせていただきます。

大野陸軍病院が山津波に見舞われ、調査班の班員約50人のうち教職員・学生の11人の方が多くの患者とともに犠牲となりました。

残暑厳しい中、慰霊の集いにはご遺族、本学名誉教授、廿日市市長、同市議会議長、市役所関係者、大野支所長、広島市関係者、広島大学関係者、広島県医師会関係者、広島大会関係者、芝蘭会広島支部関係者、京都大学からは、湊医学研究科長はじめ副院長、現職教授、副看護部長のほか、事務本部、医学研究科職員、芝蘭会事務局員など45人が参拝。無事慰霊を執り行われました。

本当の「国土強靱化」探る

あいさつする真鍋克次郎先生



【京都】7月6日、芝蘭会館福盛ホールにて平成26年度芝蘭会京都支部総会が開催されました。

総会は斎藤信雄先生の司会のもと、京都支部支部長である真鍋克次郎先生のあいさつで始まり、庶務報告、会務報告、会計報告、芝蘭会本部報告、議事と順次進められました。議事では平成26年度の行事予定や予算、および新年名刺交換会の開催名改名などについて議論がなされました。開催名改名の議題においては、どうすれば平成年度の卒業生が出席してくれるようになるかという話にも発展し、活発に議論がなされました。

その後、京都大学大学院工学研究科教授、および京都大学レジリエンス研究ユニット長を務める藤井聡先生より、「アベノミクスと国土強靱化」と題された特別講演が行われました。ここではレジリエンスとは、「強靱」のことを指します。藤井先生は、より強靱な、安

支部だより

寧の都市ユニットをもとめるうえで、都市社会学として「国土計画」の研究をしています。これは、国土が変化したときに、それに伴って社会や政治、文化といったものがどのように変化をするのかというものです。その

して現在の日本では、この国土計画が軽視されていると語りました。

1980年代ごろまでは、国土計画が大きな意味を持っていました。明治維新後、欧米諸国との差を目的とした日本は、イギリスで鉄道技術やインフラを整備して三都にインフラを整備し、また世界の玄関として敦賀の港を発展させるなど、国土計画での国力増強を図りました。第2次世界大戦敗戦後、日本の先進国の仲間入りの象徴であるオリンピックや万博でも、日本人が独自に作り上げた新幹線は欧米諸国にとつて非常に衝撃的なものであったそうです。

しかしそれ以降、日本人は現在の状況に満足してしまつたそうです。他の先進国と比較すると、アウトバインは最下位、独自の技術である新幹線もドイツやフランスに抜かれ、かつて10位以内だった港湾量も現在ではランク外となつてしまつています。藤井先生はこの現状を、インフラをめぐる全体主義であり、思考停止だと語りました。そしてこれは、日本の脆弱化の根本的原因だ、と述べられました。

この脆弱化は、二つの結果をもたらしたそうです。一つは、平成に入ってからインフラを新たに作るのをやめてしまつたために都会だけが発達し、地方が疲弊してしまつた点です。そしてもう一つは、太平洋メカゴポリスと呼ばれる東京・大阪・名古屋の三都市が、地震に対して非常に弱く、ひとたび大地震が起

ても、アウトバインは最下位、独自の技術である新幹線もドイツやフランスに抜かれ、かつて10位以内だった港湾量も現在ではランク外となつてしまつています。藤井先生はこの現状を、インフラをめぐる全体主義であり、思考停止だと語りました。そしてこれは、日本の脆弱化の根本的原因だ、と述べられました。

きると国力が集中しているために国全体がまひしてしまうだろう点です。そしてこの解決として藤井先生は、田舎にインフラを整備して住みやすくし、現在のように人口を都市に集中するのでなくもつと分散化させるべき

である、と主張しました。そうやって国土を強靱化することで当然国全体の経済が発達していく、これこそが本当のアベノミクスである、と強く述べられ、今回の特別講演を締めくくられました。

講演終了後には会場を移動し、斎藤信雄先生の司会のもと懇親会が行われました。懇親会は昭和28年卒の梅山猛先生による乾杯で始まり、懇親会中は先生方の自己紹介や近況報告が行われ、多くの先生方がわれわれ雑誌部員にも気さくにお声をかけてくださり、ためになる話も多く聞け、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。会はお招きいただいたことに感謝の意を持って、芝蘭会京都支部総会・懇親会への報告を終わらせていただきます。

その後、懇親会夕食会となり、福井大学の学長・真弓光文先生の乾杯の音頭で会が始まりました。順に参加者全員から「勤務する病院または開業する医院の現状報告」を交えた自己紹介があり、お酒も入つて会場の雰囲気は終始和やかで、皆さんが同窓会の楽しさを味わっている様子でした。

最後は、副支部長・重松陽介先生(福井大学医学部看護学教授)による一本締めで、芝蘭会福井支部のますますの繁栄を祈つて、閉会となりました。来年も、みなさんで元気に参加することを誓い合っている光景が印象的でした。

睡眠呼吸障害・痛み

【三重】7月20日(日)アスト時無呼吸症候群についての内容でした。始めに、現在使われている検査機器の説明でした。図やグラフも紹介され、非常に分かりやすいものでした。また、睡眠時無呼吸症候群には「いびき」が存在するかどうかで閉塞型と中枢型に分類される

とのことでした。そして、睡眠時無呼吸症候群と非感染性疾患との関連についての説明へと移つていきました。睡眠時無呼吸症候群が二次性高血圧の原因となつていたり、肥満や糖尿病と関係している

非常に興味深かったです。僕自身、まだ呼吸器の授業を受けたことがなかったのが、睡眠が体に及ぼすさまざまな影響について知ることができてとても有意義でした。

陳先生の学術講演に引き続き、三重大学麻酔集中治療学教授の丸山一男先生による「痛みの考えかた」についての学術講演がありました。痛みを伝える神経



和やかな雰囲気の中三重支部総会・懇親会の参加者

には伝達速度の速いA線維と伝達速度の遅いC線維の2種類があり、痛みの伝達には二つのルートが存在し、また、痛みの伝達だけではなく、痛みを和らげる下降性抑制系も存在し、この下降性抑制系はうつ状態によって抑制されるとのことです。続いて、鎮痛効果について、鎮痛剤は神経線維のシナプスに作用するものが多く、大きく分けてシナプス前膜電位の抑制とシナプス後膜電位の抑制の二つがあります。シナプス前では伝達物質の放出抑制、シナプス後では活動電位の発生を抑制することによって痛みの伝達を防いでいるとのことでした。その

非常に興味深かったです。僕自身、まだ呼吸器の授業を受けたことがなかったのが、睡眠が体に及ぼすさまざまな影響について知ることができてとても有意義でした。

最後にになりましたが、この会を通じて大先輩の貴重なお話をたくさん伺うことができました。このような貴重な会にお招きくださったことへの感謝の意をもって三重支部総会の報告を終わらせていただきます。

(文責：3回生 西川裕太)

きると国力が集中しているために国全体がまひしてしまうだろう点です。そしてこの解決として藤井先生は、田舎にインフラを整備して住みやすくし、現在のように人口を都市に集中するのでなくもつと分散化させるべき

である、と主張しました。そうやって国土を強靱化することで当然国全体の経済が発達していく、これこそが本当のアベノミクスである、と強く述べられ、今回の特別講演を締めくくられました。

講演終了後には会場を移動し、斎藤信雄先生の司会のもと懇親会が行われました。懇親会は昭和28年卒の梅山猛先生による乾杯で始まり、懇親会中は先生方の自己紹介や近況報告が行われ、多くの先生方がわれわれ雑誌部員にも気さくにお声をかけてくださり、ためになる話も多く聞け、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。会はお招きいただいたことに感謝の意を持って、芝蘭会京都支部総会・懇親会への報告を終わらせていただきます。

その後、懇親会夕食会となり、福井大学の学長・真弓光文先生の乾杯の音頭で会が始まりました。順に参加者全員から「勤務する病院または開業する医院の現状報告」を交えた自己紹介があり、お酒も入つて会場の雰囲気は終始和やかで、皆さんが同窓会の楽しさを味わっている様子でした。

最後は、副支部長・重松陽介先生(福井大学医学部看護学教授)による一本締めで、芝蘭会福井支部のますますの繁栄を祈つて、閉会となりました。来年も、みなさんで元気に参加することを誓い合っている光景が印象的でした。

非常に興味深かったです。僕自身、まだ呼吸器の授業を受けたことがなかったのが、睡眠が体に及ぼすさまざまな影響について知ることができてとても有意義でした。

COPD 診療、分かりやすく

【福井】平成26年度芝蘭会福井支部総会が、8月9日(土)にユアーズホテルフクイにて開催されました。

まず、支部長・野口正人先生(福井赤十字病院)のあいさつに始まり、昨年の総会以降に亡くなった会員の方(5人)のご冥福を祈つて黙とうを捧げ、その後、新入会員の自己紹介が行われました。総会の議事平成25年度決算、平成26年度事業計画などは円滑に進められ、全て承認されました。

続いて、会は支部会員の研究発表に移り、2題の発表「ミトコンドリア筋小胞体のβ-クモロストロク(福井大学医学部形態機能医学講座統合生理学特命教授竹内綾子先生)」「当科における統合失調症・気分障害・認知症診療の現況(杉田玄白記念公立小浜病院精神科下里友浩先生)」が行われ、活発な質疑応答が交わられました。

その後、京都大学医

最後にになりましたが、この会を通じて大先輩の貴重なお話をたくさん伺うことができました。このような貴重な会にお招きくださったことへの感謝の意をもって三重支部総会の報告を終わらせていただきます。

(文責：3回生 西川裕太)

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成26年10月31日(金)現在

- ・「三井住友銀行」利用のご寄附 310人(法人を含む) 56,290,000円
- うち、50万円以上のご寄附は56人(法人を含む)
- ・「ゆうちょ銀行」利用のご寄附 250人 5,957,000円
- うち、50万円以上のご寄附は2人

計560人(法人を含む) 62,247,000円

【ご注意】最近、芝蘭会の方々へ芝蘭会員または京都大学医学部事務職員の名前をたつて、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるという情報を会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意ください。芝蘭会事務局までご連絡ください。

TEL 0757512713
FAX 0757524015

がん薬物治療科、役割知る



にぎやかに交流した奈良支部総会・懇親会の参加者

【奈良】

8月23日(土)、芝蘭

会奈良支部学術講演会および総会が、橿原ロイヤルホテルにて催されました。奈良支部の支部長の松村忠史先生よりあいさつがあり、その後いくつかの協議事項を経て、特別講演会が開かれました。講演は、京都大学腫瘍薬物治療学講座教授の武藤先生による、「がん薬物治療科」についてのお話でした。

「がん」はわが国の死因の第1位となっており、当然ながら国民の関心も高く、京大病院では全国の国立大学病院では最も早い時期にがんセンターが設立されました。新病棟である積貞棟で稼働している

がん薬物治療科の役割は、診療科・職種横断的なマネージメント機能にある一方で、外来がん診療部門においてがん種ごとに関連診療科が同じ曜日に外来を行うユニット制外来、入院がん診療部門における診療科の垣根

支部だより

を越えた集学的がん治療、がん診療支援部門におけるがん緩和サポーターなど、専門的かつ有機的な治療を実践しているようです。また、臨床の現場での課題として、がん薬物療法専門医の不足があるようですが、この問題を解決することも、がん薬物治療科なら可能だ

決するため、日々奮闘されているそうです。その後、引き続き懇親会が開かれました。今回の総会では30人以上の先生方が、さまざまな病院からお集まりになり、また、研修医1年目の先生から、もう現役を引退されたご高齢の先生まで幅広い年代の方が参加されていました。です

れ、学生生活についてのアドバイスをいただいたり、ぜひ病院に見学に行き、と行っていただきたりして、非常に良い刺激となりました。こうして、写真撮影も行って、惜しまれながらも開きとなりました。

最後にになりましたが、この会を通して貴重な話をたくさん聞くことができました。このようないふこに感謝の意をもつて奈良支部総会の報告を終わらせていただきます。

(文責・2回生 梅本大

71回・2014(平成26)年版 芝蘭会会員名簿 刊行!

名簿作成にご協力いただき、ありがとうございます。

この度、平成26年12月に芝蘭会会員名簿を刊行いたしました。名簿作成にあたり、会員の皆様から快く異動情報等をお寄せいただき感謝申し上げます。会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせ下さい。

- 会員名簿：A4判、890頁
- 会員頒布代：一部 5,400円(消費税を含む)
(但し、会費納入者に限る。その他は10,800円)
- 送料：700円

芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

手続き等については、**芝蘭会事務局**
(TEL 075-751-2713)
までお問い合わせください。

人事異動

発令年月日	氏名	異動内容
H26.7.31	丸井 晃	退職 臨床研究総合センター准教授より近畿大学医学部奈良病院へ
H26.7.31	海老原 健	退職 臨床研究総合センター准教授より自治医科大学内科学講座内分沁代謝学へ
H26.7.31	宮本 和明	辞任 眼科学講師より中野眼科医院医師へ
H26.8.1	佐藤 寿彦	昇任 呼吸器外科助教より臨床研究総合センター准教授へ
H26.8.1	池田 華子	昇任 眼科助教より臨床研究総合センター准教授へ
H26.8.1	鈴間 潔	採用 長崎大学准教授より眼科学准教授へ
H26.8.31	佐治 重衡	辞任 標的治療腫瘍学講座特定准教授より福島県立医科大学教授へ
H26.8.31	関根 章博	辞任 医学研究支援センター特定教授より千葉大学教授へ

発令年月日	氏名	異動内容
H26.9.30	宮地 良樹	辞任 皮膚科教授より滋賀県立成人病センター院長へ
H26.9.30	谷岡 未樹	辞任 皮膚科講師より谷岡皮膚科クリニック医師へ
H26.10.1	藤澤 章弘	昇任 京大病院皮膚科助教より同講師へ
H26.10.1	小柳 智義	採用 学際研究推進室特定専門業務職員より「医学領域」産学連携推進機構特定准教授へ
H26.10.1	東森 信就	採用 芝浦工業大学非常勤講師より健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定講師へ
H26.10.1	ALTMANN, Christian Friedrich	昇任 学際融合教育研究センター特定講師より医学教育推進センター特定准教授へ
H26.10.1	吉澤 明彦	採用 信州大学助教より病理診断科講師へ

会員訃報 (敬称略) 謹んでご冥福をお祈りいたします。

田原 暁 昭和18年専卒 平成26年7月27日 逝去	熊沢 忠躬 昭和25年卒 平成24年2月9日 逝去	森 渥視 昭和36年卒 平成24年9月 逝去
足羽 敏行 昭和19年専卒 平成25年2月12日 逝去	白崎昭一郎 昭和25年卒 平成26年8月3日 逝去	久藤 豊治 昭和38年卒 平成26年9月2日 逝去
今泉 博夫 昭和20年卒 平成26年2月16日 逝去	伊藤 知男 昭和25年卒 平成26年6月20日 逝去	松岡 毅 昭和40年卒 逝去
塚田 朗 昭和20年卒 平成26年2月22日 逝去	磯井広一郎 昭和27年卒 平成24年11月11日 逝去	進藤 俊彦 昭和44年卒 平成26年7月17日 逝去
吉友 睦彦 昭和20年卒 平成22年4月12日 逝去	浜口 彰 昭和27年卒 平成26年3月10日 逝去	岡江 晃 昭和46年卒 平成25年10月28日 逝去
山根 徳治 昭和20年専卒 平成25年5月 逝去	川田 典徳 昭和28年卒 平成24年 逝去	岸本 千晴 昭和51年卒 平成26年9月21日 逝去
山本 公三 昭和20年専卒 平成26年3月25日 逝去	中野 節 昭和28年卒 平成23年8月3日 逝去	笹井 芳樹 昭和61年卒 平成26年8月5日 逝去
小林 茂 昭和21年卒 平成24年9月 逝去	伊豆津公作 昭和29年卒 平成26年7月8日 逝去	木村 隆一 教室会員 医化学 逝去
高折 忠太 昭和22年卒 平成26年7月30日 逝去	八木 茂光 昭和30年卒 逝去	田中 慶二 教室会員 病理学 平成26年2月21日 逝去
三宅 康夫 昭和22年卒 平成26年10月8日 逝去	宇野 昌人 昭和31年卒 平成26年7月10日 逝去	平松 晋 教室会員 病理学、産婦人科 平成25年10月5日 逝去
平城 一生 昭和22年卒 平成26年6月21日 逝去	高橋 勝 昭和31年卒 平成26年10月7日 逝去	吉岡 勝 教室会員 病理学 逝去
鏡 友雄 昭和23年卒 平成25年3月17日 逝去	三浦 克朗 昭和31年卒 平成26年7月1日 逝去	長田 義昭 教室会員 法医学 平成26年1月14日 逝去
川上栄一郎 昭和23年卒 平成18年 逝去	井本 達夫 昭和32年卒 平成26年4月8日 逝去	有馬 良一 教室会員 内科2 平成24年11月3日 逝去
徳山 幹治 昭和23年卒 平成26年4月21日 逝去	糸川 嘉則 昭和34年卒 平成26年8月31日 逝去	奥 秀喬 教室会員 外科 平成26年2月 逝去
住友 陽三 昭和24年卒 平成26年4月19日 逝去	土居 義男 昭和35年卒 平成26年8月25日 逝去	松岡 出 教室会員 耳鼻科 平成26年1月26日 逝去
牧野 嘉明 昭和24年卒 平成26年8月10日 逝去	入交 昭彦 昭和36年卒 平成26年7月8日 逝去	井上 律子 教室会員 胸部研 逝去
木村 清 昭和24年専卒 平成26年1月24日 逝去	滝沢 瑞穂 昭和36年卒 平成26年5月23日 逝去	松井 在河 教室会員 胸部研 平成24年 逝去
三浦 武芳 昭和24年専卒 平成23年 逝去	田辺 靖雄 昭和36年卒 平成26年8月 逝去	

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。芝蘭会報 編集委員会

事務局から

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。(FAX 075-752-4015)

- 芝蘭会報編集委員会
委員長 高折晃史
委員 斎藤信雄、岩田征良、豊田伸哉、山田圭介、園部 誠、阿部 恵
- 芝蘭会報誌部
顧問 高折晃史
- 部 員
畑野翔太郎(6回生)
鶴田将史、真辺 諄、森山太陽(以上5回生)
赤埴未宝、大植啓史、小杉大輔、坂本 慧、宮崎規晶(以上4回生)
高屋龍生、西川裕太(以上3回生)
- 梅本大地、菅原聡真、朴剛史、蔡 嗣錡(以上2回生)
- 吉平智博(1回生)
- 芝蘭会事務局
事務局長 山田 均
総務課長 秋山和美
管理課長 浜崎康博